

---

## Roxadustat(Rox)投与による中枢性甲状腺機能抑制発現の検証

---

医療法人衆和会 長崎腎病院

○佐藤修一 小嶺真耶 澤瀬健次 船越 哲

### 【背景・目的】

近年 Rox に関連した中枢性甲状腺機能低下の報告がなされている。今回我々は、Rox 投与中の血液透析患者において、まず ESA に切り替え甲状腺関連ホルモンの変化を観察した。更に、切り替え後 8 週で、これらを Daprodustat(Dap) と Enarodustat(Ena)の 2 群に振り分け、Dap と Ena が甲状腺機能に影響するか調査した。

### 【方法】

Rox投与中に 41 名について、患者に文書で同意を得た上で、まず ESA に切り替えた。次に切り替え後 8 週で、これらを Dap 及び Ena の 2 群に振り分け、一連の経過中で臨床検査データの推移を観察した。

### 【結果】

Rox を中止し ESA に変更したところ、F-T4, TSH 上昇を 41 名中 35 名 (85.4%)に認めた。TSH が上昇した群は、透析期間(OR 0.85,95%CI 0.74~0.97)と CK(OR 4.59,95%CI 1.73~12.2)、肝機能等が関連していた。その後の Dap 及び Ena 群への切り替えでは F-T4 値は増加、TSH 値は低下する傾向にあったが有意差を認めず、また 2 群間に差はなかった。

### 【考察】

今回の検討では Rox による中枢性の甲状腺機能抑制が疑われ、新たに投与する際は定期的な甲状腺機能検査が必要と思われた。Dap 及び Ena の甲状腺機能への影響は確認されなかった。